

(様式3)

平成30年度進学拠点校等充実普及事業実施報告書(拠点校)

宮城県岩ヶ崎高等学校

1 学校の進学の現状について

(1) 4年生大学への現役進学状況(平成31年3月28日現在)

*すべて実数で記入すること。

	進学拠点校等充実普及事業					
	平成28年度 (H29.3卒業生)		平成29年度 (H30.3卒業生)		平成30年度 (H31.3卒業生)	
	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数
国公立4年制大学	10	9	10	9	9	7
私立4年制大学	52	49	37	35	30	28

卒業者数	進学志望者数(A)	進学者数(B)	進学達成率(B/A)%
82	45	35	78%

(2) 平成30年度(H31年3月卒業生)主な進学先

*具体的な大学名を記入し、大学名の後に(合格者数)を記入すること。

①国公立4年制大学
岩手大学(3) 北海道教育大学函館校(1) 室蘭工業大学(1) 釧路公立大学(1) 青森公立大学(1) 高崎経済大学(1) 都留文科大学(1) 計9名
②私立4年制大学
東北学院大学(3) 東北福祉大学(7) 宮城学院女子大学(8) 東北工業大学(2) 盛岡大学(10) 白鷗大学(2) 国際医療福祉大学(2) 明治大学(1) 成蹊大学(1) 神田外語大学(1) 桜美林大学(3) 東海大学(1) 神奈川大学(1) 武蔵野大学(3) フェリス女学院大学(1) 大正大学(2) など延べ62名

2 当事業実施による目標の達成状況や成果について

当事業実施により、一般受験で国公立大学に挑戦する生徒が増えた。昨年度は延べで24名であったが、今年度は27名出願した。合格はしなかったものの今年も東北大学に挑戦した生徒が1名いた。最後まで第一志望にこだわって受験する生徒が多かったため、合格率には結びつかなかったのが残念であるが、次年度の合格を期待したい。また、国公立大学に合格したにもかかわらず、保護者の意向で入学を辞退するケースもあり指導の難しさを感じた。私立大学に関しては、昨年同様首都圏の大学で苦戦した。ただ、今年は久々に明治大学や成蹊大学の合格者が出るなど昨年よりも善戦したと言える。

本校の進路希望は、大学進学、高等看護学校進学、公務員志望と多岐に渡っているが、当事業が高看合格率(73.0%)や公務員合格率(70.2%)の高さにもつながっていると考えられる。

3 平成30年度に実施した個別事業について

事業項目	ねらい	実施状況	成果と課題
大学入試センター試験対策研究会参加	教員の指導力向上を図る。	仙台市内の予備校での講座に国語科教員1名，地歴科教員1名が参加。	センター試験で得点させるための指導法を学ぶことができた。ベテラン教諭も率先して参加した。
東北大入試問題研究会参加	教員の指導力向上を図る。	仙台市内の予備校の講座に国語科教員1名，理科科教員1名，英語科教員1名が参加。	東北大の入試問題の詳細な分析，得点をもらえる答案の作り方やその指導について学ぶことができた。
先進校視察	教員の指導力向上を図るとともに，新入試についての取り組みについて情報収集する。	ベテラン教諭と若手教員が秋田県と岩手県の公立高校を視察，英語科の若手教員2名が栃木県内の公立高校2校を訪問した。	新入試に向けた取り組みについては参考になる点を取り入れ，英語の4技能を高める指導法について学ぶことができた。
進路指導ワークショップ参加	各学校の進路指導に関する取り組みを共有し，本校の進路指導体制の向上に役立てる。	1学年主任兼進路指導部員が参加した。	新入試について先進的な取り組みについて情報を共有することができた。特に組織的な研究の進め方について学ぶことができた。校内での組織作りに活かしたい。
各大学の説明会参加	現行の入試および新入試についての情報を収集する。	三大学説明会をはじめ，個々の大学の説明会に進路部員および3年担任が参加した。	新入試に関連した情報については職員会議で報告し，全職員で共有できるようにした。今後も情報の共有化に力を入れたい。
模擬試験全員受験(1・2年)と模擬試験分析会の実施	生徒の実態を把握することにより，適切な進学指導及び授業改善に役立てる。	新入生のスタディサポートの分析会，1・2年の7月と11月の模擬試験の分析会を実施した。	学習到達度や学びに対する姿勢をより細かく把握することができ，進路選択や受験科目選択，授業改善に役立った。また，二者面談にも活用することができた。

進路対策検討会の実施	一人ひとりの生徒の情報を共有し、より適切な志望先および受験スタイルの決定に役立てる。	5月の二者面談の前、7月の三者面談の前に3学年の進路検討会を実施した。	担任をする教員が余裕もって面談に臨むことができた。また、チームで進路指導に取り組む雰囲気が高まった。
大学出前授業	大学の先生の講義を受けることにより、進路意識の高揚を図る。	2・3年生を対象に5講座で実施した。生徒の進路希望をもとに講師を選定。岩手大、東北学院大、国際医療福祉大等の教員に依頼した。	大学の先生の講義を直接聞くことにより、大学の学びについて理解することができた。
東北大オープンキャンパス	1学年の生徒に大学について具体的なイメージを持たせ、大学に進学したいという志を持たせる。	1学年を対象に7月31日に実施。1学年教員が引率。見学する学部は生徒の希望に添って決定。	実際に大学のキャンパスを見学したり講義を受けることにより、学問に対する興味・関心を高めることができた。また、大学での学びのレベルを意識することができた。
2・3年合同学習合宿	2年生と3年生が合同で合宿することにより、互いに切磋琢磨しながら長時間集中して学習する姿勢を育てる。	8月上旬に東北自治総合研修センターを会場に実施。2・3年生併せて60名が参加した。予備校講師による英語の講習も実施した。	最初から落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組む姿が見られた。先生方へ質問する生徒も多く、有意義な合宿であった。
夢ナビライブ参加	様々な大学の講義や説明を聞くことで、進路に関する情報収集し、広い視野から進路選択する姿勢を育てる。	10月上旬の土曜日に夢メッセで行われた夢ナビライブに2学年全員が参加。2学年教員が引率。	近隣の大学だけでなく、遠くにある大学についての情報を得ることができた。志望する国公立大学の幅が広がった。次年度も実施したい。
課外講習	大学受験対策・基礎学力養成として実施。	夏期課外・冬期課外・平日課外を各学年で実施。	生徒の実態に合わせた講習で参加率も高い。次年度はさらに充実したものにした。センター試験後の課外については持ち方を検討したい。
進路講演会	外部講師による話を聞くことにより、進路意識を高める。	1年生は10月と12月に、2年生は10月に実施。講師はベネッセの高校事業部の方と富士大学の鈴木輝彦教授。	大学入試のしくみや動向について理解できた。また、鈴木輝彦教授の話は心に響く内容であった。

進路体験発表会	卒業生による進路達成に向けた具体的な取り組みについての話を聞き、今後の受験勉強の参考とする。	進学、公務員試験に合格した先輩の体験を聞いた。1月はA0入試と公務員試験に合格した先輩から、3月は一般入試で大学に合格した先輩の話を聞いた。2年生対象の行事。	3年生の熱のこもった体験談を、2学年の生徒はメモを取りながら聞いていた。また、「進路だより」にその内容を掲載した。
各種校内コンクールおよび朝自習の実施	語彙力、表現力、発想力等の向上、国数英の基礎事項の定着を図る。	全学年を対象に漢字コンクール(年8回)、数学コンクール(年2回)、小論文コンクール(年1回)実施。朝自習は試験期間を除き毎日実施。	特に漢字コンクールはクラスマッチとして楽しんでおり、志望理由を書く際にも助かっている。
社会人ワークショップ	1学年対象の行事で、職業観の育成を図る。	地元ロータリークラブの方から自分の職業についての話を聞き、その後質疑応答の時間を設けた。	自分の関心のある職業、知らなかった職業について知り、視野を広げることができた。次年度は持ち方を検討したい。
栗原市役所岩高支所	探求する姿勢、協働する力を育成する。また、大学での学びにつなげる。	2学年の「総合的な学習の時間」に実施したグループでの活動。各グループでテーマを設定し、課題解決に向けて調べ学習や討論をし、最後はそれをまとめ、プレゼンテーションした。	今年度で2回目の実施である。大学入試の志望理由書を書く際にも役だっている。
NIE学習	社会の出来事に対して関心を持ち、視野を広げる。また、大学の学びにもつなげる。	3学年の「総合的な学習の時間」に実施。自分の関心のある新聞記事を切り抜きし、それについて意見をまとめ、グループで話し合ったり、SHRで発表した。新聞社の方にも講義をしてもらった。	社会の出来事に対して関心を持つようになった。また、A0入試や推薦入試の志望理由書や面接で役立った。
今未来手帳の活用	生徒が先を見通して自立的に学習に取り組むための一助とする。	本校の生徒全員が今未来手帳を活用。担任の先生が定期的に集めてコメントを記入。	生徒との関係作りに役立っている。学習時間の増加に十分つながっているとは言えないので今後活用の仕方を検討したい。